

平成 21 年 2 月 28 日
日本セキュリティマネジメント学会
セキュリティマネジメント学生賞審査委員会

辻井重男セキュリティ学生論文賞

セキュリティマネジメント学生賞 審査講評

20 年度の辻井重男セキュリティ学生論文賞には、初年度にかかわらず総数で 32 の応募を得ました。内訳は、セキュリティマネジメント学生賞に応募の論文が 10 件、情報セキュリティ学生賞への応募が 11 件、応募する賞の決定を審査委員会にゆだねるとしたものが 11 件でした。審査委員会にゆだねられた論文 11 件を、両賞の審査委員会で協議のうえ、6 件をセキュリティマネジメント学生賞に、5 件を情報セキュリティ学生賞に振り分けて審査をすることとなり、その結果、セキュリティマネジメント学生賞は、合計 16 編の論文を審査対象といたしました。

審査は、新規性（新規性が論文の中で主張されているか、先行研究等との関係が示されているか）、有効性（現実の問題についての解や効果が期待できるか）、信頼性（論理展開が明快で主張の根拠が明確に示されているか）を中心に、辻井賞の趣旨に照らして適切であるかなどを考慮して行われました。未発表論文の中には、先行研究との関係が示されておらず、主張の根拠の提示が不十分などで評価を下げたもの、あるいは、審査員によって評価の分かれる論文などがありました。第 1 次審査では 7 編が選ばれ、それらを対象に第 2 次審査において最終的絞込みが行われました。

この過程で安定して高い評価を受けたのが、受付番号 006、主筆者芦野佑樹さん（東京電機大学大学院先端科学技術研究科情報通信メディア工学専攻）の『セキュリティデバイスとヒステリシス署名を用いたデジタルフォレンジックシステムの提案と評価』です。この論文は、スタンドアロンシステム型のデジタルフォレンジックシステムに取り組み、その要件の整理や脅威分析から方式の設計、プロトタイプシステムの構築と運用、さらにはそれらの評価までの確に示されており、新規性、有効性、信頼性いずれにも高い評価を獲得しました。もちろん辻井賞の趣旨にも適合しているとして総合的に高い評価を獲得し、栄えある第一回の辻井重男セキュリティ学生論文賞セキュリティマネジメント学生賞に選ばれました。